

日本の工芸品とフランスのデザイン力の融合

兵庫県パリ事務所 所長 東 信隆

芸術の国・職人の国フランス

兵庫県には様々な伝統工芸品や地場産品があり、中には欧州に広く輸出されているものもあります。特にフランスは芸術の国であるだけでなく、欧州の工芸デザインをリードしてきた職人の国でもあります。厳しい審美眼や、職人仕事への深い理解を持つフランス市場にチャレンジすべく、県内の工芸品関係者からお問い合わせを頂くことがあります。

日本で販売する商品をそのまま展開する場合もあれば、フランスのデザイナーとコラボして欧州の生活文化に合わせた新商品を開発する場合があります。

今回は、日本の工芸品メーカーとのデザインプロジェクトで多数の実績がある、フランス人若手デザイナーのフラヴィアン・デルベルグさんに、どのような視点でプロジェクトを進めているのかインタビューしましたので、ご参考になればと思います。

フラヴィアン・デルベルグさんの紹介

フラヴィアンさんは、2015年にパリのエコール・ブール国立工芸学校の修士課程を卒業し、在学中には京都の伝統工芸職人下での研修、卒業後にはデンマークのデザイン事務所での経験を経て、2016年にパリで自身のデザイン事務所



フラヴィアンさん【筆者撮影】

「Studio Flavien Delbergue」(https://www.flaviendelbergue.com) を設立。2019年には静岡県の木工品メーカー(有)豊岡クラフトと共同開発した木箱「Hako」が日本ウッドデザイン賞の特別賞を受賞するなど、日仏で多くの受賞歴あります。

2025年10月に、兵庫県線香協同組合が実施した、「香り」をテーマとした連環型アートプロジェクト「環香(Wacca)」(https://awaji-fragrance.com/wacca-awajiscentartproject/)に参加されたご縁から、フラヴィアンさんのパリのオフィスを訪ねる機会がありました。

以下は、インタビューの抜粋です。

「美しさ」、「シンプル」、「使い勝手(多用途)」

—どのように共同開発を進めるのですか？

「Hako」プロジェクトの木工品メーカーは、数十年前から変わらないデザインの卓上盆や文箱など様々な木工製品を作っていて、日本だけでなく韓国や台湾でも販売していました。技術力の高さは疑いありませんが、私には少し古風なデザインに思えたので、欧州向けに現代的なデザインになるよう、「美しさ(Esthétique)」、「シンプル(Simple)」、「使い勝手(Usage)」の3点を兼ね備えた、卓上盆と小箱のセットをデザイン・提案しました。

まず、茶色の塗料やニスを使うのをやめて、ヒノキの木目の美しさを生かしました。日本の企業にありがちですが、欧州向けに工夫するあまり複雑なデザインにしてしまうと、つくるのも複雑になり、コストも高くなって、それを輸出するとさらに価格が高くなります。シンプルにデザインするのは難しいですが、シンプルさはつくることを容易にし、コストや価格も抑え、輸出し易

くなります。また、使い勝手という点では、日本では特定の用途毎に設計した道具をつくる傾向があります。他方、フランスでは一つのシンプルな箱を色々な用途に使う方が好まれます。つまり、使い手の創造性が重視されます。

「Hako」は木製のお盆と小箱のセットですが、アクセサリーを入れる人もいれば、文房具などのデスク用品を入れる人も、食品を入れてディスプレイする人もいます。



デザインした「Hako」【筆者撮影】

—日本のメーカーは提案をすぐに理解されましたか？

美しさの観点はすぐに理解頂きましたが、使い勝手の観点は少し時間がかかりました。日本ウッドデザイン賞を受賞して、今ではよく理解頂いています。実際に、「Hako」はフランスで既に500セットほど販売しましたが、工芸品としては売れ行きが良い方です。

デザインで日欧の文化の橋渡しをする

—デザインを考える時に重視していることは何ですか？

私は日本語が全然分からないのですが、日本に行くと、説明を聞かなくてもどのように使うかが一目瞭然なものに出会います。あえて聞かなくても、形状、美しさ、材質感、技術が一つの「自明性」を形づくっていて、何に使うか、どのように使うかが自ずと分かります。

日本の生活文化の中で、世代を超えて職人がつくり上げた美しさとシンプルさは、フランス人が日本の道具に惹かれる理由ですが、そのままでは欧州の生活文化の中ですぐに居場所を見つけれないものもあります。元々の卓上盆や木箱は、日本では長く使われてきたものですが、そのままではフランスに馴染まないと感じました。日本の職人の高い技術に、少しデザインを変えて、フランスの使い手が用途を選べる余地をつくることで居場所が見つかります。このように、デザインで日欧の文化の橋渡しすることを重視しています。



元々のフタ(左)を極力薄くデザインして(右)、シンプルに【筆者撮影】

日本とフランスはどちらも美しい国です。千の違う景色があり、独自のアイデンティティを持った地域があり、文化は違っても共通するセンスも多く、日仏が互いに惹かれ合う理由だと、思います。

以上がインタビューの抜粋です。今後も、フラヴィアンさんのような方の活躍で、日本の工芸品が持つ素材や技術の素晴らしさとフランスのデザイン力が融合し、多くの日本の工芸品メーカーがフランス市場にチャレンジされる機会が広がることを期待したいと思います。

ひょうご海外ビジネスセンターは、兵庫県が世界3か所に設置する兵庫県海外事務所と連携して、県内企業の海外ビジネス展開を支援しています。本通信は、各海外事務所から寄せられる現地トピックスをお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】